

6.23 SHR資料

June 22, 2000

平和教会推進委員会

【平和宣言】

55年前、生徒たちは、砲弾と飢えと「任務」のなかに生きていた。

男子生徒は戦闘訓練や通信教育を受け、鉄血勤皇隊となった。

女子生徒は救急看護教育を受け、学徒看護隊となった。

壕から壕への伝令、弾薬の運搬、負傷兵の看護や死体処理。

軍国主義教育に染められた生徒たちは、過酷な任務に耐えた。

そして・・・1,000人を超える命がなくなった。

砲弾や馬乗り攻撃で戦死した者、手榴弾で自らの命を絶った者・・・希望に膨らんでいたであろう未来は消えた。

なくなった若い命が・・・もっと、もっと生きたかった命が、私たちに訴えかける。

「平和な沖縄を築いてほしい」と。

今、私たちの住む沖縄は平和な島だろうか。

鉄の暴風を受けた廃墟の中から立ち上がり、28年前には本土復帰を実現させた。

その一方で、平和な島「沖縄」であるはずのこの地に、たくさんのアメリカ軍基地がある。

日米安全保障条約のもと全国の米軍専用施設の75%がこの小さな島、沖縄に集中している。

私たちが過去の歴史から学んだこと、それは、武器を持ち戦う戦争は、人間の尊厳を否定するということだ。

だから私たちは武器を捨てよう！

本当の平和な沖縄を私たちの手で創造するんだ。

軍隊はいらない。

私たちは知っている。平和な沖縄を創るために、今、何をすればいいのかを。

尊い命を犠牲にした、人々の悲しみが教えてくれた。

軍隊は要らない。

武器は要らない。

命を奪うすべてのものは要らない。

過去を見つめる私たちの確かな目が、現在のそして将来の世界の平和につながっている。

今日、私たち南風原高校生は、一人一人が平和な島「沖縄」を築いて行くことを心に誓う。

そして「平和の心」を南風にのせて世界へ伝えて行く決意をした。

平成12年6月22日

南風原高校生一同